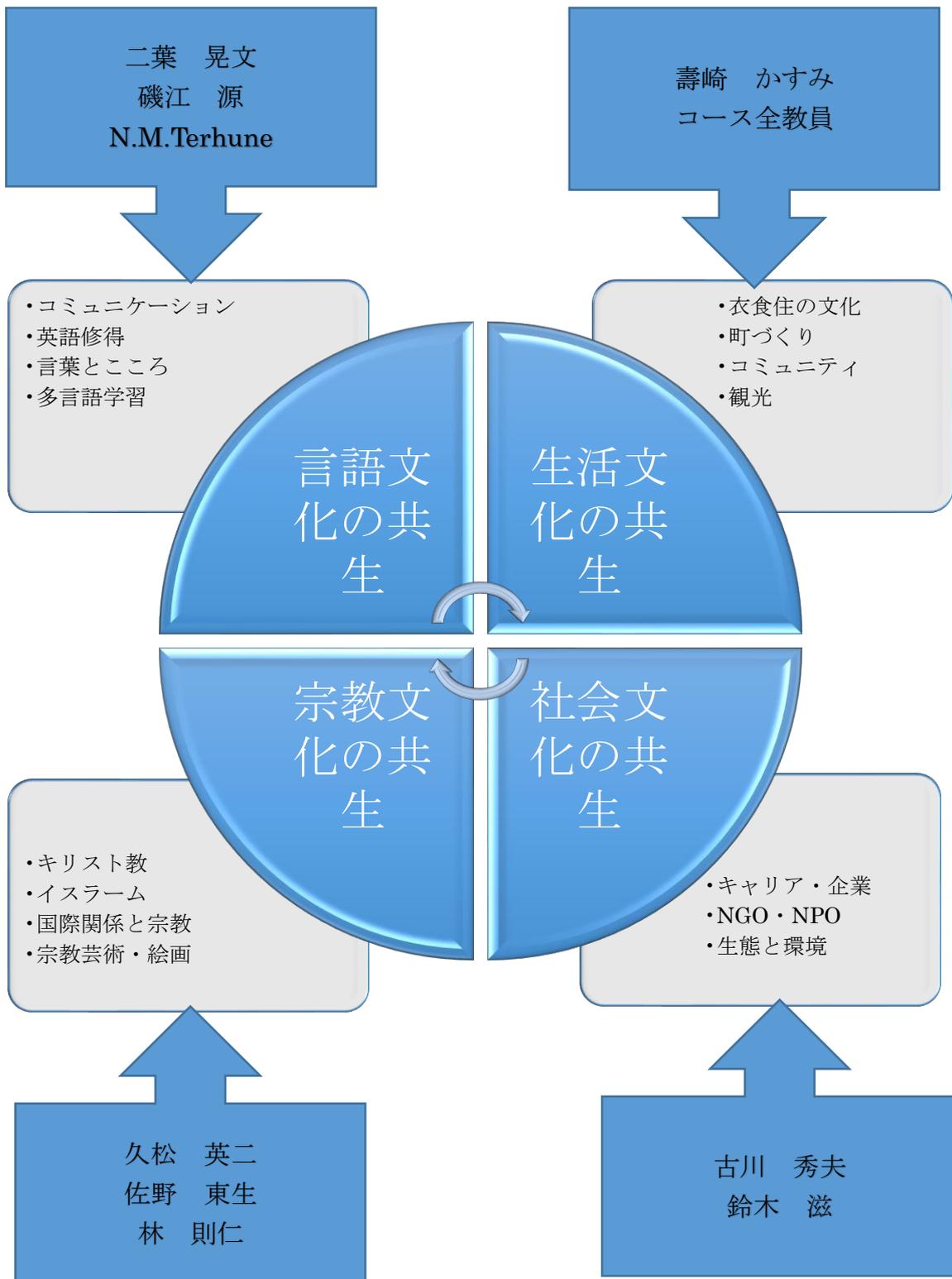


# 多文化共生入門

多文化共生コース担当者からのご案内



# 多文化共生コースの見取り図



## ようこそ多文化共生コースへ

この小冊子『多文化共生入門』を手にする学生の皆さんは、前期の基礎演習 A などを通じて私たちの学部・学科に慣れてきた頃と思います。すでにおわかりのように、国際文化学科は、文化をベースに世界を理解し、英語など外国語学習を通じコミュニケーション能力を高めようとの教育を重視しています。本小冊子で紹介する多文化共生コースも、この教育内容をより専門的に学生の皆さんと共に学んでいくため、学科 3 コースの一つとして設立されました。

多文化共生コースの名称を分解すると、コースの理念が見えてきます。つまり、本コースは、「多文化」が「共」に「生」きるにはどうしたらよいか、また「多文化」と「共」に「生」かされることの意義を学んでいきます。ここで、「多文化」とはなにか考えてみましょう。まず文化とは、言語から社会、政治、宗教、芸術に至る、人間活動のあらゆる側面を包括したものです。今日の世界は、一方で様々な国、地域、民族等が固有の文化を持ちつつも、グローバル化の進展によって「ボーダーレス化」、つまり国境などを越えた留学生、移民や観光客に至る人の移動が活発化し、文化の混ざり合いが進展しています。この結果、世界の各所で多様な文化を持つ人々が共に生活する「多文化」的状況が出現しています。日本もその例外ではなく、いままでの単一文化・民族の国から、類似した状況が生まれる兆候が芽生えつつあります。

こうした「多文化」社会の出現は、大きくは人類の平和的共存のための新たなステップともいえますが、他方で、ともすると人間は自らの所属し、慣れ親しんできた言語・文化に囚われ、異なる文化や人々への偏見や無理解に発する摩擦や衝突も生じがちです。そこで現代は、日本を含む全世界で、今まで以上に異なる言語・文化を持つ人々を理解し、その上で理解を行動に移して、文化的に様々な人々と共に生活や学習・仕事を行う必要性が増しているといえるでしょう。多文化共生、すなわち「多文化」と「共」に「生」き、また「生」かされるとは、まさにこのことを指すといえます。

多文化共生コースでは、以上の理念と目的を、コース基礎科目、専門科目を通じてわかりやすく学生の皆さんに教え、また皆さんと共に考えていきます。ここで**1 ページの多文化共生コースの見取り図をご覧ください**。ここに示されているように、コース教育は、コース所属教員 9 名が自らの多様な専門を生かした専門科目を軸に、①英語を主とする言語文化をはじめ、②生活文化、③社会文化、④宗教文化にわたる 4 つの分野に分かれ、多文化世界の諸側面を皆さんにわかりやすく教え、実践的に共に学んでいきます。ただし、見取り図にも示されるように、これら 4 分野はばらばらではなく、相互に関連しています。皆さんも、コース専門科目を受講する上で、各科目のこれら 4 分野への所属と関連性を常に念頭に置いて学習してください。そうすることで、各科目において教員と共に学び、考えた内容がただの断片的知識ではなく、有機的に結合した、多文化共生にふさわしい実践的知識となっていくでしょう。

本小冊子『多文化共生入門』では、以上の点を踏まえ、1 回生の皆さん向けに、多文化共生コースの教員ひとりひとりによる、自らの専門に基づいた文章を載せています。これ

らの文章は、比較的短いですが、それぞれわかりやすい専門内容のイントロダクションとなるように工夫したもので、皆さんの今後の勉学のために大変役に立つ指針ともなります。そこで、是非、**興味ある文章を中心に全体に目を通してみてください**。そこには今までとは違った新しい知識、方法や発見が必ずあるはずです。同時に、各文章は、皆さんが今後大学で作成していくレポートの良い見本ともなることでしょう。

多文化共生コースの教員一同、皆さんが、本テキストを通じて本コースに興味を抱き、2回生以降も共に学んでいくことを期待しています。

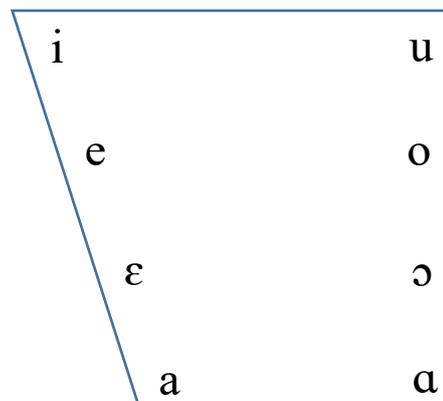
多文化共生コース代表 久松 英二

## 目 次

英語も大学では別の側面を観察	磯江 源 (Gen ISOE)	(5)
美術を通して文化を知る	林 則仁 (Norihito HAYASHI)	(7)
「隠れたメッセージ」を読み解く	久松英二 (Eiji HISAMATSU )	(9)
多文化共生を実現する社会と人間像	古川秀夫 (Hideo FURUKAWA)	(11)
世界の歴史・文化とイスラーム	佐野東生 (Tosei SANŌ)	(13)
都市計画ってなに？	壽崎かすみ (Kasumi SUSAKI)	(15)
人類学 — サルをとおしてヒトを考えるとはどういうことか —	鈴木滋 (Shigeru SUZUKI)	(17)
On language learning for students	Terhune, Noel Mitchell	(19)
私の「国際文化学」	二葉晃文 (Terufumi Futaba)	(21)

私の担当している専門科目は音声学概論、比較言語学、英語外書購読です。順番に説明しましょう。

音声学。「音声」というのは、人が言語の発声に使う音のことです。だから発音に関する学問ですね。みなさんは辞書に発音記号が使われていることを知っているでしょう。単語をひいたとき発音もものっていないと困ることがあるからです。もともと言語というものは意味と音声を結びつけたものなのです。文字の使用が始まったのは人類の歴史のずっとあとのほう、つまりつい最近のことであって、それまでは長い間、はなしことばが言語でした。文字というのは石、金属、紙などの上にことばを表現する手段に過ぎず、音楽でいえば音符のようなものであったといえます。音楽の表現手段が音そのものであるように、言語の意味表現も音声によって実現されるのです。音声学が言語学の基礎学であるのは、このような意味で音声



国際音声記号による基本母音図

が言語の表現手段の根本であるからです。英語の発音が国ごとに違うこと、過去のそれぞれの時代によっても違うことなどを研究する場合に音声学の知識が必要になります。あるいはもともと英語、ドイツ語、オランダ語などは一つの言語から分かれたという歴史をみると、もとのことばの発音はどのようであったか、さらに遠い過去にこれらの言語はフランス語、ギリシャ語、ペルシャ語、ヒンディー語など数多くの言語と共通の祖語を持っているという事実の内容を研究しようとするとき、やはり音声学の知識が大きな力となります。

私の担当する比較言語学はさまざまな時代の互いに関連性のある言語の類似点と相違点を観察する学問です。英語と親戚関係の強い言語の一つにドイツ語がありますが、いまフランス語をみるとドイツ語よりずっと英語に似ているようにみえます。その理由は英語の歴史を勉強したら理解できるのです。古英語(11世紀ころまでの英語)はいまの英語よりずっとドイツ語に似ていました。その後11世紀にフランスの公家の支配を受けて公用語がフランス語になった時期があるために英語の語彙はフランス語の影響を受けたということです。そのフランス語の祖語はラテン語なので、みなさんが辞書で英単語の語源をみるとラテン語になっていることが多いわけです。ところでこのような事実を理解することはかんたんですが、その間の英語の変化がどのようであったかをくわしく知るためには比較言語学の方法を使って、具体的にはフランス語が英語にどのように変化を与えていったかを調べていかなくてはなりません。異言語



の接触、そこには単なる音声と音声のぶつかり合い、異なる文型の相互移入などにとどまらず、それぞれの言語の背景にある異文化の接触がもたらす興味深い現象が観察されるのです。

最後にもう一つの科目、英語外書購読のことで。少しいかめしい名前の科目だと思う人がいるかと思います。私のクラスでは外書=英語の原書として、文学作品を翻訳しないでそのまま英語で鑑賞することを目的としています。単語の覚え方、つまり語彙増強についても、これは重要なことですから説明していますが、主としてパラグラフフリーディング、つまり文章の構成要素をパラグラフととらえて、その意味内容の前後とのつながりに注意してもらおうというやりかたをしています。そのパラグラフはどんな意味があるのか、なぜそこにおかれているのか、を考えるわけです。一文一文をばらばらに訳して考えないで、パラグラフの中にわからない文があってもいいからその全体についてよく理解するということです。以上手短かに担当科目の説明をいたしました。英語の勉強のなかでもかなり特徴のはっきりした科目が多いと思います。その特徴に興味を持った人はぜひ履修してください。

蛇足ながら私の趣味はというと、散歩と山歩き、それにワインを楽しむことです(注意:飲酒は20歳になってから!)。山歩きといっても山登りというほど本格的でないところが残念です。しかし四季の自然を眺めたあとのワインの味は格別です。

印刷術を発明したグーテンベルクの聖書。写真は創世記の部分で、有名な「はじめに神は天と地を創造した」の文で始まっています(赤字の下の2行目黒字から)。英語逐語訳  
In principio creavit deus celum  
“in beginning created god heavens  
et terram.

and earth” 大英博物館資料  
注 celum は古典ラテン語では caelum。  
また、ラテン語には冠詞がない。



レポートで書くことを勧めるテーマ

オーストラリア英語の特徴、ノルマン征服、私の読んだ英語文学、など。

参考文献

早坂信 2000 一杯のオーストラリア英語-手軽なフレーズ集 日本放送出版協会

渡部昇一 1983 英語の歴史 大修館

## 美術を通して文化を知る

林 則仁

### ・専門とする研究分野

私が専門とする研究分野は美術史です。おもにイスラーム地域の美術を扱っていますが、西洋・東洋の絵画美術についても研究を行なっています。近年は中世イスラーム世界で制作された博物誌や百科全書に描かれる不思議な生きものについて、海外の研究者と共同で研究を進めています。また、これに関連して西洋や日本・中国などで古くから伝えられてきた怪異な現象や生きものについて研究を行なっている人たちと共同で中世から近世にかけてのアジア・ヨーロッパ地域における驚異や怪異の視覚化についての地域を超えた分析も行なっていたりします。



(図書館での写本調査の様子)

### ・これまで学んできたこと

私は高校を卒業後、イギリスの大学・大学院で美術史の勉強をしてきました。それまで特に美術が好きだったわけではありません。今でも絵は描けませんし、かなり下手です。美術史を勉強しようと思ったきっかけは大学生時代にロンドンで多くの芸術に触れたからです。どこかで見たことのある有名な芸術作品に心を奪われ、さらに世界の最先端で活躍する教授たちとの出会いも刺激的なものでした。美術史を学ぶことがどれほど楽しいことかをロンドンでたくさん学んできました。いまでも美術に接する時には当時と変わらずワクワクします。その感動を皆さんにも伝えたいという思いで授業を行なっています。

### ・講義について

「イスラームの文化 A/B」と「多文化交流入門」「多文化交流論 A」を担当しています。(2019年度は別教員が担当予定) イスラームの文化 A では、イスラーム世界の建築について地域や時代ごとに特徴を学んでいきます。イスラーム文化は西はスペインから東は中国西部にまで広がっており、地域ごとにそれぞれ特徴が異なります。講義では、イスラームの各地域の文化を建築を通して学ぶことでイスラームにおける文化の多様性と統一性について考えます。イスラームの文化 B ではイスラームの工芸作品(写本絵画、ガラス、金属工芸、陶器、タイル、布織物など)を中心に、イスラーム世界における宗教美術と世俗美術のあり方について学びます。多文化交流入門および多文化交流論 A では、日本やアジア、欧米、イスラームなどの豊かで多様な文化がいかに交流し、相互に影響を受けて発展してきたかに

ついて、毎回モノを通して理解していきます。

・国際文化実践プログラムについて

これまでに担当した国際文化実践プログラムはおもに海外研修と国内研修です。海外研修では、パリ・ロンドン文化研修（2014年度芸術メディアコース研修）、ロンドン文化研修（2016年度実践プログラム）、国内研修では、東京美術研修（2018年度実践プログラム）など。



（ロンドン文化研修の様子）

・ゼミについて

私の担当するゼミは私の専門分野である美術を中心としていますが、最近はおもにデザインやデコレーションについて研究するゼミを目指しています。モノで溢れている現代の私たちの生活空間のあらゆるモノにはデザインやデコレーションが施されていますが、あまり気にせず生活しています。それらを一度もの凄く気にしてみると研究の入り口がみえてきたりします。



・レポートテーマ

「“ジャポニスム”とはどのようなものか、印象派の絵画を例に説明しなさい」

・参考文献

東田雅博『ジャポニスムと近代の日本』山川出版社 2017年

稲賀繁美『日本美術史の近代とその外部』NHK出版 2018年

## 「隠れたメッセージ」を読み解く

久松英二



写真1



写真2



写真3

ヨハネス・フェルメール（1632年 - 1675年）は、17世紀にオランダで活躍した画家で、レンブラントと並び17世紀のオランダ黄金時代を代表する画家とされます。ただ、現存する作品点数は、研究者によって異同はあるものの、33 - 36点しか知られていませんが、そのほとんどが風俗画というジャンルに含まれます。それらの作品は、綿密な空間構成と巧みな光と質感の表現がみごとです。

その代表作の一つがこの「天秤を持つ女」（写真1）です。これは「真珠を量る女」あるいは「金を量る女」と呼ばれることもあります。顕微鏡を使った詳細な調査の結果、女性が持つ天秤には何も乗せられていないことが分かったので、一般的には「天秤を持つ女」と称されます。1662-65年頃に画家が数多く手がけた女性の日常的活動やしぐさを描いた風俗画のひとつですが、他の作品を比較した場合、この絵の特徴は光の描き方にあります。たとえば、「牛乳を注ぐ女」（写真2）や「窓辺で手紙を読む女」（写真3）などのように、左の窓からの静謐な光が室内を柔らかく包みこんでいますが、この作品に関してはカーテンの僅かな隙間から入ってくる強めの光であり、しかも、女性の顔や前半身・天秤・真珠・金貨など要点となる箇所へ光を強調して描いているのは、他の作品とは雰囲気異なっているのがわかります。

しかし、この作品の最もユニークな点は、この頃の作品には珍しく寓意的なアプローチが示されているということです。寓意とは、ある意味を、直接には表さず、別の物事に託して表すことを言いますが、実は、この作品は、全く意外なことに「最後の審判」が隠れたテーマとなっているということです。なぜそういえるかというと、女性の後ろにうっすらと見える「画中画」、つまり、絵の中に描かれた絵画作品が「最後の審判」だからです。「最後の審判」とは、この世の終わりに再臨したキリストが、全人類に下す審判のことで、善行を積んだものは天国、悪行を重ねた人は地獄に落とされる。

古来、「最後の審判」を描く絵は、たとえばメムリンクの「最後の審判」（1473年以前）（写真4）やワイデンの描く「最後の審判の祭壇画」（1442-1451年）（写真5）のように、画面中央に天秤を持った大天使ミカエルを置くのが約束事となっています。聖書にそういう記述はないのですが、正式な裁判官であるキリストのお手伝いとして働いているわけで、人間はこの天秤で罪の重さを量られることになっています。



写真 4



写真 5

一方、フェルメールの絵では、天秤を持った女性が、背後の壁の「最後の審判」の絵で天秤を持った天使が描かれているはずの部分隠しています。一見、偶然のように見えますね。でも、なぜわざわざ最後の審判の絵がかかっているのでしょうか。中途半端にしか見えないのであれば、壁に絵など飾らなくともよいのでは、って思いませんか。写真 2 も 3 も絵なんかありません。すっきりしています。

しかし、フェルメールにとっては、この壁絵は重大なものなのです。なくてはならないものなのです。実は、この女性は秤を持つ天使を隠している、のではなくて、天使の役をしている、天使の代わりに秤を持っている、のです。しかし、量っているのは罪や徳の重さではなく、宝石です。机の上の宝石は、この世の富の象徴なのです。この宝石の重みが、最後の審判で天国行きの切符になってくれるのか、ということを観者に問うているのです。ここで、聖書に精通している人は、「金もちが天国に入ることは、ラクダが針の穴を通るよりもむずかしい」というイエスの言葉を連想するでしょうね。つまり、富は救いの道たりえないということ。

かくして、この作品には、純粋にキリスト教的な関心事である死後の運命とこの世の富への態度について思いをはせるようにという「隠れたメッセージ」が読み取れるのです。このいわば深刻ですが聖なるメッセージを、フェルメールはあえて「俗画」という形で、「暗に」示しているのです。当然、この絵を見た当時の人々は、彼女が持つ天秤の意味というものに思索を巡らすことになったはずです。

しかし、現代に生きる私たち、しかもキリスト教を知らない私たちには、この「隠れたメッセージ」を感知することは不可能です。私が担当する「キリスト教の文化B」では、西洋絵画におけるこうした宗教的メッセージを読み説くための手ほどきを伝授します。

#### レポート課題

キリスト教の絵画芸術から好きな作品を選択し、その作品を紹介するプレゼンテーション用のパワーポイント資料を作成しましょう。

#### 参考文献

船本 弘毅『一冊でわかる 名画と聖書』成美堂出版（2011）

千足 伸行『すぐわかる キリスト教絵画の見かた』東京美術（2005）

諸川 春樹（監修）『西洋絵画の主題物語〈1〉聖書編』美術出版社（1997）

## 多文化共生を実現する社会と人間像

古川秀夫

### 1 移民大国化する日本

現在から未来にかけて、異なる文化に属する人々の共生を必死に模索しなくてはならない事態が地球全体で広範に進んでいる。それは、米国、カナダ、オーストラリアなど移民国家は言うまでもなく、ヨーロッパを代表するフランス、ドイツ、イギリスなどの民族国家、そして単一民族国家を装ってきたわが日本国も例外でない。

表 1. OECD(経済協力開発機構)加盟国のうち  
1年間に流入した移住者数上位 10 カ国

順位	2010年	11年	12年	13年	14年	15年	
1	米国	米国	米国	ドイツ	ドイツ	ドイツ	201万8241人
2	ドイツ	ドイツ	ドイツ	米国	米国	米国	105万1031人
3	英国	英国	英国	英国	英国	英国	47万9000人
4	イタリア	イタリア	イタリア	韓国	韓国	日本	39万1160人
5	スペイン	スペイン	日本	日本	日本	韓国	37万2935人
6	韓国	韓国	韓国	イタリア	スペイン	スペイン	29万1387人
7	日本	日本	スペイン	カナダ	カナダ	カナダ	27万1808人
8	カナダ	カナダ	カナダ	フランス	フランス	フランス	25万2643人
9	フランス	フランス	フランス	スペイン	イタリア	イタリア	25万465人
10	豪州	豪州	豪州	豪州	豪州	豪州	22万3654人

少子高齢化による生産者人口の減少を背景に、日本で働く外国人が増え続けている。先進国を構成する経済協力開発機構(OECD)加盟 35 カ国の最新(2015年)の国際移住統計によれば、日本への流入者は前年比約 5.5 万人増の約 39 万人となり、2014年の 5 位から 4 位に上昇した(表 1、西日本新聞.2018)。なお、OECD の国際移

住統計で、日本への移住者は「有効なビザを保有し、90 日以上在留予定の外国人」が計上されている。日本の 2015 年移住者数 39 万人といえ、京都市人口約 147 万人の 3 分の 1 に迫るものである。異なる文化的背景を持つ人々といかに共生を図っていくかという問題が今まさに突き付けられている状況が生まれている。

### 2 多文化共生社会を支える社会のあり方

社会を 3 つのセクターに分ける考え方がある。地域社会、国レベルの国民社会、あるいは地球レベルの国際社会において、地方および中央の政府や EU や国連等の国家の連合体をファーストセクター、株式会社を典型とする民間企業等で構成される市場をセカンドセクター、ボランティアや NPO 等の活動領域はサードセクターと分け、3 つのセクターが連携することで社会が円滑に機能するという認識が世界に広く共有されつつある。とりわけ、まだまだ影響力は弱いながら、サードセクターに期待する声は大きい。

異なる文化的背景を持つ人々が新しい社会で暮らす手助けをするのにも、さまざまな形でサードセクターに属する NGO や NPO が貢献している。1995 年 1 月の阪神大震災発生直後、田村太郎氏らによって設立された「外国人地震情報センター」が母体となる NPO「多文化共生センター」は、兵庫、大阪、京都、東京 4 か所で独立した事務所を開き、外国人が医療を受けるための支援など幅広く活動を展開している。

また、関西の中でも外国人労働者を最も多数受け入れていた滋賀県では、「多文化共生支援センター」をはじめとして、在住外国人のための日本語教育、生活相談などの支援を行う数多くの NPO が活動している。住民サービスを第一義的に担うべきファーストセクターとなる地方自治体は在住外国人のため直接的な支援を行うというよりは、NPO に補助金などを交付する間接的な支援で、より高い効果をあげている。

### 3 多文化共生社会を実現する人間像

私たちが生活していく中で「仕事」や「家庭」が重要なことに議論の余地はない。企業や職場を重視する立場からすれば「仕事」が第一領域、「家庭」が第二領域と位置づけられ、家族や世代継承を重視する立場からは「家庭」が第一領域、「仕事」が第二領域となる。昨今、人々の仕事のあり方について、ワーク・ライフ・バランスという標語がしばしば取り上げられる。仕事と生活の均衡ある充実によって生きがいや人生の喜びを増大させようとする趣旨だが、そこで「ライフ」の意味する内容は家庭内での家事や育児分担程度で、ワーク・ファミリー・バランスのレベルにとどまっている。「仕事」と「家庭」を離れた第三の生活領域についての問題意識が決定的に不足している。

この第三領域は、形式的には「余暇」あるいは「自由時間」と呼ばれ、拘束を受けない「仕事」や「家庭」以外に残された時間の過ごし方ということになるが、その内容は人それぞれである。趣味の野球サークルで体を動かすことから、健康維持とストレス解消のための温泉観光、あるいは環境 NGO（非政府組織）でのボランティア活動、さらには脱原発を掲げる政党を支援する政治的市民活動まで多種多様である。しかしながら、第三領域における活動の我が国における質的・量的充実はまだまだというのが現状である。

人間生活における第三領域の意義は3つに大別できる。

一つめは、ストレスや葛藤の原因ともなる「仕事」や「家庭」から一時的にせよ解放を与え、再びよき仕事人やよき家庭人に立ち戻らせることである。精神的あるいは肉体的疲労を癒し、健康を維持・回復させることも含む。それは、レクリエーション(再創造)やリフレッシュなどの言葉に端的に表現される。いささか消極的な意義づけと言えるかもしれない。

二つめは、必ずしも全ての人に該当するわけではないが、人生の目的や自己実現の場であることだ。「働きがい」が「生きがい」につながることは十分可能だが、「仕事」は生業（なりわい）であって、生活の糧を得るための手段に過ぎないとも言える。「仕事」で生活基盤を確固たるものにし、趣味的、社会的活動に「生きがい」を見出すことは大いにあり得る。

三つめは、個人の趣味的範囲を超えた社会的意義にかかわるものだ。ボランティア・NPO活動を通じて、私たちが生活する社会全体をより良い方向に変えていく社会貢献としての意義である。もちろん、その種の活動に2つめにあげた自己実現の意義を見出すこともありえるが、やむにやまれぬ義務・責務として参加することもある。

生活の糧を得るためのセカンドセクターへの関与は当然のこととして、家庭人としての家族生活を営むことに加え、ファーストセクター、サードセクターにおける市民としての関与を当たり前のことと考え、実際に時間と労力をいとわぬ人間が望まれるのである。そういった人々が、真にワーク・ライフ・バランスのとれた市民ということになるのだ。

#### 【課題】

まず、関心ある外国の一つを取りあげ、当該国の移民受け入れの歴史や現在の状況について調べなさい。それを引用しながら、あなた自身、または日本人と日本社会が現にぶつかっている移民大国化の事態をどうとらえ、どう行動すべきか、1000字程度で論じなさい。

注：西日本新聞 『「移民流入」日本4位に 15年39万人、5年で12万人増』 2018年5月30日 [https://www.nishinippon.co.jp/feature/new\\_immigration\\_age/article/420486/](https://www.nishinippon.co.jp/feature/new_immigration_age/article/420486/) (2018年9月11日閲覧)

担当講義：歴史入門（来年度開講予定）、イスラームの社会など

1. 歴史を学び多文化の視野を身につけよう

国際文化学科での学びは多様で、留学など海外との交流の機会も豊富である。これらの理解を深めるためには過去に起こった歴史を知ることによって新たな視点が開けることが多い。例えば身近な日本を例に挙げれば、よく日本や日本人は島国で閉鎖的である、といわれるが、本当にそうだろうか？歴史を振り返って古代に遡るほど、実は日本の国際性、多文化性がわかってくる。

1万年近く続いた縄文時代には、アジア大陸や太平洋の島々から実に多様な人間集団が日本列島に移住し、その後も奈良時代まで渡来人といわれる人々が多く来ている。古代日本は多様な言語文化を持った人々を受け入れる寛容性を備えていたといえる。誰もが知っている聖徳太子も国際性に富んだ人物で、外来の宗教である仏教を受け入れ、大阪に異文化を集めた四天王寺という初の寺院を建て、当時の大国・中国の隋に対し「日出づる処の天子」と対等な称号の書簡を提出する使節を派遣している。

奈良・正倉院のシルクロード渡来のグラス（図1）など宝物にも見られる日本の国際性は、その後も戦国時代のキリスト教受容（世界遺産に認定された長崎の教会群はその証拠である）や、明治以降の西洋文明受容・近代化で再現していく。海に囲まれた日本は、外国の文化を選択的に受け入れ、長期に渡り保存するという特性があり、他の国がなくした古代以来の多文化交流の証拠が現代まで多く残っている世界でも珍しい国なのである。



図1 正倉院グラスと同型・透明のイラン出土グラス

2. 歴史の学びと現代との関係—イスラームの例

歴史の学びから日本の国際性が見えてくる。現代は、かつてない国際化・グローバル化の時代で、これまであまり知らなかった異文化・宗教の人々との交流も本格化している。イスラーム世界（図2）の人々との交流はその顕著な例で、今や中東のみならず、インドネシア、マレーシアといった東南アジアからの少なからぬ観光客や留学生が東京や京都を訪れるようになっている。そこでイスラームとはなにか知る必要も生じており、このためにはその歴史・文化を学ぶ必要がある。

イスラームはただひとつの神を信じる宗教で、キリスト教によく似ている。歴史的には中東を中心に数々の大きな国家を成立させ、医学・数学から芸術・文学にいたる文化を発展させてきた。モスクや宮殿建築もその例で、イランのイマーム・モスク（図3）やトルコのトプカプ宮殿などが代表作である。神への敬虔さ、善をなす努力さえあれば人間が自

由な能力を発揮して文化を創ることを勧める柔軟性に富んだ宗教といえる。

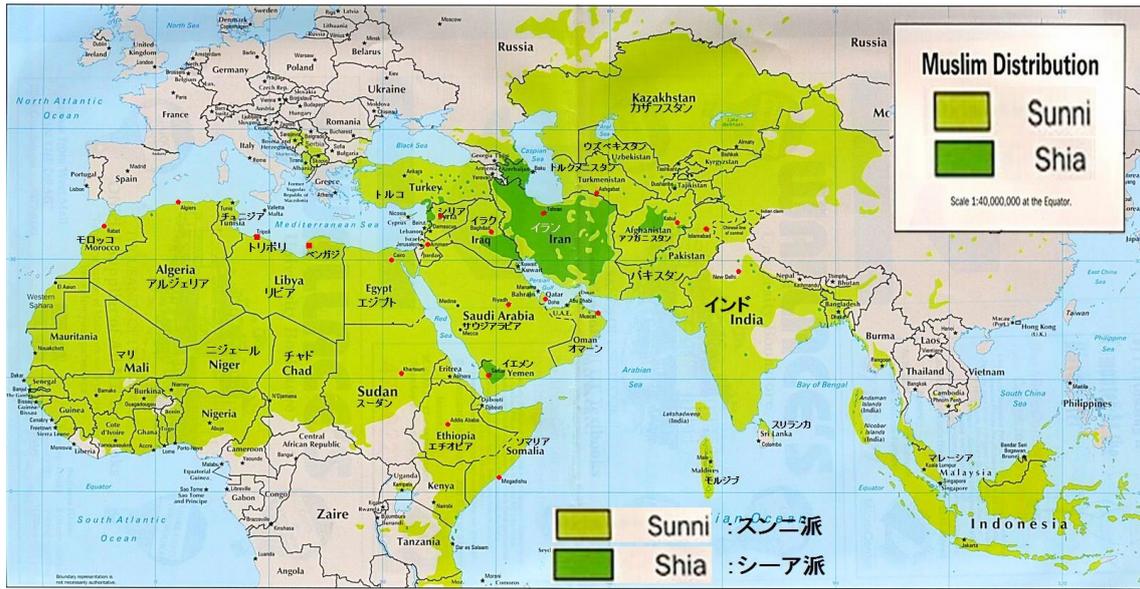


図2 イスラーム世界の地図（多数派・スンナ派とイラン中心のシーア派に分かれる）

現代では、国際情勢の上でイスラーム世界の動向が重要性を増し、ニュースのみならず自分で情報を集める必要が増している。ツーリズム、また石油エネルギー産業などのビジネスでも同様である。このため、大学での関連講義、また留学や国際文化実践プログラムなどをきっかけに、自分でイスラーム世界とその人々と交流していく努力が望ましい。多文化共生コースでは、イスラームの歴史理解を基に、身近な衣食住から国際関係に至る多様な分野について講義を提供し、実践プログラムでも関連地域への研修を行っている（2019年度はギリシア・トルコ研修（担当・佐野）を予定）。こうした機会を利用し、ぜひ自分自身のイスラーム理解、ひいては国際性を高めていってほしい。



図3 イマーム・モスクでの実践プログラム記念写真

### 3. 学習のための参考文献

- 佐野 東生／久松 英二編『多文化時代の宗教論入門』ミネルヴァ書房 2017
- 深見 奈緒子『世界のイスラーム建築』講談社現代新書 2005
- 鈴木 董『オスマン帝国 イスラム世界の「柔かい専制」』講談社現代新書 1992

### 4. レポート課題の例：以下も参考に自分の関心で設定し、教員にも聞いてみよう！

- \*イスラーム建築について、トプカプ宮殿の構造、タイル装飾を中心に調べる
- \*日本とトルコの関係について、1890年のトルコ軍艦沈没・救出事件を中心に調べる
- \*日本へのイスラームからのインバウンド観光客のため、食事提供などの対策を調べる
- \*図2：イスラーム世界の地図から興味ある国・地域を選んで歴史・文化を調べる

## 都市計画ってなに？

壽崎かすみ

私の専門は「都市計画」です。「都市に計画があると言われてもピンとこない」という人がほとんどだと思いますが、都市は計画されています。

現在言われる「都市計画」は「近代都市計画」と呼ばれ、イギリスではじまった産業革命がきっかけとなって生まれました。産業革命がおき、都市に工場がつくられ、工場労働者が農村から大勢都市に集まってきました。そのため住宅不足が起きました。また、上下水道の整備など、そこに住む人が健康に生活するために必要な都市機能（都市インフラと呼ばれる、ライフラインとも言います）が整備されないままに、人口が増えました。

その結果、水を媒介とする伝染病、コレラなど罹ったら確実に死ぬ（当時は現在のような薬はありませんでした）病気がはやり、多くの人が死にました。このような悲惨な出来事をきっかけとして、上下水道の整備をはじめとし、人が健康的に生活できるように道路、住宅などを整備することがはじまりました。これが近代都市計画のはじまりです。産業革命がドイツなどヨーロッパをはじめ世界に広がるのに合わせて近代都市計画も世界に広がりました。日本では江戸時代が終わり、明治時代が始まるころでした。

明治維新のあと、日本は東京に都を移し（天皇のいる場所を変え）、東京を中心として日本という国を新しい国につくり替える作業をはじめました。明治維新のあと日本は憲法をつくり、法律をつくりました。法律をつくるときは、ヨーロッパの法律を参考にしました。都市計画についてもヨーロッパの法律を参考に法律をつくりました。大正時代のことです。日本の都市計画法は参考にしたヨーロッパの都市計画に関わる法律と比較すると、色々と違いがあります。私が一番気になるのは日本の都市計画法は経済成長、人口増を前提に開発するのは良いこととしてつくられたため、人間にとっての住みやすさや快適さをどの程度、重要であると考えているかということです。

たとえば京都市の一人あたり公園面積（京都市の公園の面積を全部たしたものを人口で割った数字）はパリやロンドンと比べるととても小さいのです。日本で公園というと子どもが遊ぶところがまず、思い浮かびますが、京都御所あるいはもっと広い公園を都市の中に確保することがヨーロッパでは優先順位の高いことがらです。イギリスでは、公園は誰でも利用できる場所で、雨が降ると泥んこになるような地面や泥道、芝生、池や木の茂ったところもあります。そして、大人が普通に散歩しています。犬を連れている人、子どもを連れている人など色々な人が自分の時間を楽しんでいます。子どもの遊び場は公園の中の一部を柵で囲って確保し、遊具がおかれています。子ども（年齢制限もある）と子どもの親以外は立ち入り禁止です。

イギリスではロンドン市内でもこのような公園がたくさんあります。日本にはこういう公園がないので、たとえば、京都に住む人がロンドンに住む人と同じ方法で犬を飼うことはできません。人が暮らす場としての都市の作り方が違います。

私は日本の都市を人が暮らすという立場からみたときの課題、問題を色々な方法で明ら

かにし、どうする必要があるかを研究してきました。しかし、いくら研究して論文を書いても実際の都市は簡単には変わりません。そこで、都市をコンピュータ上でシミュレーションすることをはじめました。「都市シミュレーション」と呼ばれる方法です。

都市計画の研究にコンピュータを利用すること、「地理情報システム」と呼ばれるコンピュータ・ソフトウェアを利用することは、普通に行われています。市役所などもこのソフトウェアを使って色々な情報を市役所のホームページ上で公表しています。このソフトウェアは情報を発信するだけでなく、都市の分析にも広く使われています。

コンピュータ・シミュレーションをするためのソフトウェアも色々あって研究者の間で使われています。コンピュータ・シミュレーション用ソフトウェアと地理情報システムを組み合わせて使うこともされています。

コンピュータ上に都市を表現することで、都市を変えてみる、つくってみることが可能になります。つくってみることは、私には楽しいことです。都市計画には色々な分野の人が関わっています。建築、土木、造園、法律、経済など色々な人と出会います。それぞれの立場から都市を良くすることを考えています。

私自身は工学部出身のエンジニアなので、「つくりたい」という気持ちが法律や経済出身の人よりは強いようです。これからは、コンピュータ・シミュレーションを使って、実際につくって実験をするという方法も使いながら、都市の住みやすさを考えて行きたいと思っています。

私自身の研究テーマとはしていませんが、「都市史」と呼ばれる分野もあります。京都は古い都なので、その歴史についての研究はたくさん行われています。

## 課題

京都市の現在の都市計画について調べ、興味を持ったテーマについて調べてください。景観、観光、交通、防災、空き家など大きなテーマから身近なテーマまで、色々なことが課題とされています。最新情報は京都市役所のホームページ上で公開されています。

## 参考文献

『都市計画の世界史』日端康夫 講談社現代新書

『入門都市計画』谷口守 森北出版株式会社

『都市経営時代のアーバンデザイン』西村幸夫・高梨遼太郎他著 学芸出版社

『都市縮小時代の土地利用計画：多様な都市空間創出へ向けた課題と対応策』日本建築学会編 学芸出版社

この他に京都のまちの歴史に関する本は、多数出版されています。

## 「人類学—サルをとおしてヒトを考えるととはどういうことか—」

鈴木滋

私は、自然科学系の理学部出身で、霊長類学、人類学を専門としています。研究の対象は、野生のサル、とくにアフリカのゴリラ、チンパンジー、屋久島のニホンザルなどです。アフリカでは、ガボンやコンゴの熱帯林地帯で、同じ森で暮らすゴリラとチンパンジーの共存のしくみを生態学的な面から調べています。また、屋久島では、ニホンザルの社会構造の謎を追求してきました。また最近では、環境保全などの自然とヒトの関係や、さまざまな文化にみられるサルの文化的な位置や進化のとらえ方や差別の問題についても興味をひろげていくところです。サルをとおして、文化と人間のあり方を考えるのは、異文化の理解のために重要な基本であると考えています。



### 人類学とはなにか？

人類学とは、「人とはなにか」について、さまざまな対象と方法をもとに考える学問です。人類学については、この10年あまり、学部学生向けにいろいろな説明をしてきました。そこでわかったのは、人類学とは、ヒトの「あたりまえ」に含まれる謎を解く学問だということです。特別な才能をもった人や、劇的な出来事などに注目するよりはむしろ、普通の人の体や心、また、生活やその積み重ねにみられる不思議さに目をつけて、その成り立ちを考えることが基本です。だから、身近なことから、ものすごく大げさなことまで、いろいろな問いかけがあります。たとえば、「家族とはなにか」とか、「人間はなぜ悪をはたらくのか」といったことを、人間のみならず、サルやほかの生き物とも比較して考える学問です。

テレビなどではよく、母親のサルがアカンボウを愛おしそうに毛づくろいして、他のサルたちと一緒に座しているところを、サルの「家族」と説明しますが、あれはいったいヒトの家族と同じなのでしょうか？じっさいのところ、家族といっても、ニホンザルの群れの場合は、母親と子供とその姉妹はふだんから一緒にいますが、オスは父親かどうかはわからないので、父親らしくふるまう行動は、群れのオトナオスにはほとんどありません。つまり、サルの群れはヒトの家族とはだいぶ違います。また、ゴリラの群れは、シルバーバックとよばれる、背中が白い大きなオトナオスと、数頭のメスとその子どもたちからなる一夫多妻の群れで生活しています。つまり、ゴリラの群れは、いわゆるペア型のカップルとは異なるので、やはりヒトの家族とはかなり違います。一方、チンパンジーの知能はヒトに近く、野生でも道具使用や肉食をすることがわかっています。では、チンパンジーはどんな「家族」をつくるのでしょうか？(知りたくなったらまずは自分で調べてみよう。ウェブでお手軽に情報を手に入れられます。信頼できるサイトを選ぶのが肝心です。)



つまり、ゴリラの群れは、いわゆるペア型のカップルとは異なるので、やはりヒトの家族とはかなり違います。一方、チンパンジーの知能はヒトに近く、野生でも道具使用や肉食をすることがわかっています。では、チンパンジーはどんな「家族」をつくるのでしょうか？(知りたくなったらまずは自分で調べてみよう。ウェブでお手軽に情報を手に入れられます。信頼できるサイトを選ぶのが肝心です。)

こうした問いかけは、私たちが毎日あたりまえにやっていることのなかに、じつはとても不思議なことが含まれていることを示しています。わたしたちが、どんな家族をつくり、だれと恋をしてどんなセックスをするか、また、どうしてインセストはタブーになっているのか？これらのことは、すべて本能なのでしょう？あるいは、文化によって違いがあるのでしょうか？このような疑問は、あまりにも日常にくみこまれているためにほとんどの人はこれまで疑問を感じてこなかったかもしれません。しかし、私たちが異文化に接し、野生の動物の生き方を知ると、こうした疑問をほってはおけなくなってきたわけです。そこに人類学の始まりがあります。あなたなら、こうした疑問にどう答えるのでしょうか？

## 担当科目

1回生むけの基礎科目として**自然人類学概論**があり、上述の「家族」の問題について、サルと詳しく比較して検討します。また、3回生以上向けの**自然と文化**の講義では、ヒトやサルの本能と文化という問題を、動物の道具使用や、言語能力、また、インセスト回避などのトピックスから考えます。2回生以上向けの専攻科目は環境系の科目が2つあり、**環境人類学**では自然と人のかかわりについての進化史を、人類進化や生態人類学などの研究にもとづいて、環境の持続可能性について検討します。さらに**環境保全論**では、環境倫理の基礎を踏まえて、屋久島とアフリカ熱帯林での研究経験を背景として、現代の世界における自然の保全の問題と可能性について考えてもらう授業をしています。そのほか、**国際文化実践**では、屋久島で人と自然の関係を調べる**屋久島実習**と、京都の自然と人の関係を調べる**人類学実習**を担当しています。



## レポートのトピックス

- A) 自分の家族をふりかえって、家族のどんなところが人間らしいのかを文献などをつかって調べてみよう。それは本能的なのか、文化的なのかも考察してみよう。
- B) 自分の興味のあるサルが、どんな家族を作るのかをウェブでしらべてみよう。その動物の生息地はきちんと保全されているか、あるいは絶滅の危機にさらされていないかを自然保護関連のサイト（英語）をつかって調べてみよう。

## ブックガイド

クリスチャン、デヴィッド、シンシア・ストークス・ブラウン、クレイグ・ベンジャミン 2016  
「ビッグヒストリー われわれはどこから来て、どこへ行くのか」石井克弥他訳、明石書店、東京。

ジャレド・ダイヤモンド,2015「若い読者のための第三のチンパンジー：人間という動物の進化と未来」草思社。

ポンティング、クライブ 1994「緑の世界史 上・下」石弘之/京都大学環境史研究会訳（朝日選書）朝日新聞社、東京。

斉藤成也・海部陽介・米田穰・隅山健太 2009「絵でわかる人類の進化」

## On language learning for students

N. M. Terhune

Hello

I teach English as a second language in the Intercultural Communication Department of the International Faculty. I do this in many different classes but I like to focus on how students can learn English on their own. English classes offer things like guidance, inspiration, goals and information about English but the actual hard work of learning it is still done by the student, on his or her own. It takes many hours to learn a language but not all of them have to be desk study. Just exposure to English in the form of movies, podcasts and of course talking to friends is good practice. And practice is what makes you good at English.

You must practice English just like anything else you want to get good at. Think of English as a sport and your English teacher as a coach. By doing this it can become fun and easier to spend more time doing it. To



become good at baseball, soccer or badminton you need lots of practice. Think of all the hours kids practice sports in school, 3-4 hours a day or more. If you practice English that much, you will become very good at it. Your practice doesn't have to be all sitting at a desk studying. It can be doing fun things, like watching movies or talking to friends in English. Get out, use and practice your English.

Here are some guidelines to help you use your university time effectively to learn English.

- Practice, use and enjoy English-don't be afraid to make mistakes. Learning a second language is much like learning a first language. They both require lots of practice.

- Practice makes perfect in language learning just as in sports. Improvement in a language takes time and dedication just like baseball, tennis or soccer but it does not have to be painful desk study. It can be playing with the language in the form of movies, hobbies or talking to friends.
- Being proactive with your language learning will give you the best chance of success. Plan ahead and know what to learn next.
- Reading is especially helpful for language learning. It will help you develop grammar, vocabulary and spelling among other skills. Extensive reading with graded readers will give you practice at the right level and greatly improve your English.
- Movies and TV programs can be made more understandable with subtitles, transcripts and related reading. Technology can help you by making them easier to understand and convenient to use.
- Travel with your English, not just study abroad, but get out and meet the people of the world. And remember, speaking English with other language learners can be just as effective as speaking with native speakers.
- You may not succeed in language learning even with considerable study. If you feel yourself not meeting your goals it is generally due to a lack of practice.

#### 課題

Proactive な英語学習者として 本文にあるような英語の映画を見るなどの短期、長期のゴールを設定し、実践してみよう。

## 私の「国際文化学」

二葉晃文

1996年4月、龍谷大学で国際文化学(Intercultural Communication)という新しい学問が、英語、中国語、フランス語、コリア語、日本語でスタートし、第一回の教授会で、初代学部長の故比嘉正範(1930-2003)氏が、英語と日本語で私たちに話しかけられました。” Which language shall we use ?” とあるアメリカ国籍の教授が右手をあげて“Japanese is fine.” だと。学部長のころは、まだ来日してまもない日本語が不自由な教員への、慈愛のお言葉だったと思います。その観点にたてば、国際文化学とは、おそらく多様な価値観を持った文化を超えたコミュニケーションを推奨する民際学的なものかもしれません。「現在の国際文化学の教員に、国際文化学の定義をきいても誰一人として同じものが無いのは当たり前ですが・・・」というのは、言い過ぎでしょうか・・・ 私個人は、比嘉先生の果たせなかった夢「世界平和」への道を、インド独立の父と言われたガンジーの言葉「平和への道はない。平和こそ道だ。」という言葉に見出し、「なぜ、地球上の総人口のうち1%の富裕層が99%を隷属化できるかという」理由を問い、自分の脚を使ってを学ぶ新しい学問を2003年から始めました。

想像してみてください。相手が自分と同じ感情を持つ人間であることさえ忘れ、突然、立ち上がって、右(Right:正しい)手の人差し指を相手に向け、口角泡を飛ばしながら「持論」を延々と展開する人を。自戒の念を込めて、この原因は主に二つ。目下の者に命令さえ出しておけば、自分は、新しく便利なもので遊んでられるという傲慢な社会制度と利便性。最新の脳科学の発見によると、「親」の一言一言が、生まれる前の赤ちゃんの脳細胞と「ころろ」を破壊し続け、「産」まれても、「ころば」を発することができない「戦後生まれ」人たちが、急増しているそうです。(友田明美(2018)『子どもの脳を傷つける親たち』 NHK出版新書523 美健社)ではそんな「私はAだ!」、「私はBだ」という「父性」だけを前面に出した人たちに、左手をあげて、「ごはんですよ〜」と「母性」を持った人が声をかけるとどうなるでしょうか。まず、それぞれが頑く信じている信条をすて、日常的に、あなたを後ろで支えている最愛の人を慈しみ、衣、食、住をともに分かち合える世界が拓がります。

世界が平和になるために今、私たち一人一人がもてるやさしいころろとは、为什么呢。そこにはお金は一銭もいらぬはず。まず、マイクロ(Micro)の世界として家族を取り上げてみましょう。四世代が集う食卓で、「戦争を知らない」世代の私たちの責務は、私たちを自分の所有物だと思って、どなりつける戦争世代の親たちに、笑顔で、ゆっくりと、やさしく、単純なことばで語りかけるころろを持つ慈愛のころろです。私たち戦争を知らない世代が残して欲しいは、戦争世代の親たちのお金や土地ではなく、一緒に料理をし、食卓を囲んで話してくれる昔話だと思ひます。

あなたを立派な親にするために地上おいた最後の天使であるかもしれない目の前の赤ちゃんは、保育園にいくまで話したくても、話せません。そんなころろをもった世界の子供達の声を、自分のおもちゃに心を奪われ忙しいと言わずに、食卓で聞いて見ませんか。例えば、Parrは、絵本『The Peace Book』でこう語りかけます。「Peace is being different, feeling good about yourself, and helping others. The world is a better place because of you! Love, Todd」この絵本に、相手の外見が、国が、民族が、地域が、宗教が違ふから、相手を憎めというメッセージがあるでしょうか。

でも、大きくなって「私はだれ?』と自問自答するあなたは、Dionne Farrisの“HUMAN”を歌いたくなるかもしれません。“Before I am black, Before I am woman, Before I am short, Before I am young, Before I am African I am human, Because I am black, Because I am woman, Because I am short, Because I am young, Because I am African, oh, I am human, I am human, I am human, I am human, Oh, I am human” 「私は私」という「信念」を持ちましょう。

「言語とこころ入門」では、マハトマ・ガンディーと共にインドを独立へと導き、ガンディー一亡きあと、15年間で、6万キロの道を歩き、450万エーカー（四国の面積に相当する）土地を譲り受け、貧しい人々と共に生きたビノーバ・バーベ。私たち地球上の生き物は、空気も水も土も無償でただいて息しているのなら、生涯かけてすることは、社会にお返しすること。お金があるならのお金を、ないなら労働を、それもないなら手を、それもないなら相手をいたわる言葉を、恐れずに見まませんか、私たちにやさしく『怖れるなかれ（フィア・ノット）』と語りかけます。無償の活動を当たり前のようにする人たちが、あなたの周りにいることを感じたことはありませんか。ご主人様が言いつけたこと以外の時間でも、昼夜働き続ける「母性」をもつ人たち。ビノーバ・バーベの言葉を、音読し、教育とは何か、学ぶとは何か、について考え、自分の道は自分で切り開くことを、一緒に学びました。

「言語とこころA」では、『こころの音読』という教科書を使い、十章の物語を音読し、人間の「こころ」から出る「言葉」とは何かについて考えました。その第三章にあることばは、今あなたの目の前で困っている人を見かけた時、声をかける「こころ」です。この書籍は、いろいろなクラスで五年以上使用していますが、毎回、音読する一人一人に「こころの音読」の楽しさを教えてくれます。

慈愛の「こころ」をもって、昼夜働き続ける母性をもった人たちの好例は、『須恵村の女たち一暮しの民俗誌』にも書かれています。国外にいる紅毛碧眼の人々は、同じ時代に生きた女性たちの姿を日系移民の人たちで見聞したからこそ、直毛の黒髪の女性たちにあこがれ、戦後、日本に來日するのもかもしれません。ところが日本に残された戦争を知らずに生まれた世代に、占領軍が七年間もかけて3S (Sports, Sex, Screen) 政策で教示して下さったのは、裸体のようなボディを晒し、堂々と道を闊歩する老若男女の姿。あれ?これひょっとして、コロンブスが南洋諸島でみな人たちのことでしょうか?

国際文化学は、国家が変わるごとに書き換えられる歴史 (his+story=history) を自分の言葉で書かれた書籍で読むことだけではありません。目の前であなたにお小遣いを下さり、自分の好きなテレビ番組を見ているお年寄りだけではなく、あなたが皇帝のようにエネルギーを使いまくっている時間帯 (10pm-5am) に屋内外で社会を支えている人たちの後ろ姿をしっかりと見ることでもあります。昔のことばに「お天道様がみてござる」ということばがあったような・・・

からだにいいからと飲み続けている薬に何が入っているか、自分で調べたことはありませんか。大人たちは、利便性に溺れ、株式会社作った袋を無意識に両手であけ、話に夢中になりながら、飲食し、有名ブランドの化粧品で経皮に毒を塗り、人を批判する権利は、自分だけにあると洗脳されたべき論者をそろそろやめませんか。『真弓むかし診療所物語 医者にいのちを預けるな 監修 真弓定夫 ②クスリの無駄と害』

息ることが苦しくなったら、人生の先輩のことばを鵜呑みにせず、人間がこの世に生まれた

唯一の使命は人を幸せにすることだという童心を思い出し、空を見上げ、体で風を感じ、幼い赤ちゃんの笑顔をただ見つめている半分、青い私が、老若男女と手を取り合って一緒に1964年の東京オリンピックのあった「懐かしい未来」を創造してみませんか。

レポート課題: 前述した資料から一つと、自分が興味をもった文献の二つの計3つ以上を参考に、自分の脚で、フィールドワークで調査した「国際文化学」について、1600字以内にまとめてください。

#### 参考文献

- 磯村 寛治(2015) 『日本史重要用語&演習—日本史B』
- 映像文化協会 (1996) 『教えられなかった戦争』DVDシリーズ
- 雄山真弓 (2012) 『心の免疫力を高める「ゆらぎ」の心理学』祥伝社文庫
- 加島祥造 (2006) 『タオー老子』筑摩書房
- 川口由一 (2014) 『自然農にいのち宿りで』創森社
- 親鸞 正信偈和讃
- 田中一彦 (2017) 『忘れられた人類学者(ジャパノロジスト)』忘羊社
- ティク・ナット・ハン (1999) 『仏の教え ビーリング・ピース ほほえみが人を生かす』中公文庫
- 辻信一 (2015) 『ゆっくり小学校 学びをほどき、編み直す』株式会社素敬
- ネルソン・アレン (2006) 『戦場で心が壊れて 元海兵隊員の証言』新日本出版社
- ひばり&川田in America 1950 (COGP-38151)
- 美空ひばり(1974) 『一本の鉛筆』<https://www.youtube.com/watch?v=2iennv9Yh1A>
- Fantini, Alvino (2018) 『Intercultural Communicative Competence in Educational Exchange』Routledge
- Fulghum, Robert (1993) "ALL I REALLY NEEDED TO KNOW I LEARNED IN KINDERGARTEN" in 『Chicken Soup for the Soul』written by J. Canfield and M.V. Hansen Health Communication, Inc.
- Ikeda, Mitsuru (1996) 『The World of Hotsuma Legends』Japan Translation Center
- STING (2011) 『Best of 25 Years』(ASIN: B00HV6Y08)
- Parr, Todd (2004) 『The Peace Book』Little, Brown Books for Young Readers